



8月中旬は旧盆で、里帰りやお墓参りにお子さんも同行する事でしょう。普段会った事の無い人と接するのは社交力を育む良い機会ですが、お子さんの心身に負担にならないよう十分ご配慮下さい。

9月1日には「防災引き取り訓練」を行います。

保育園では災害に備え、様々な対策を考えて準備していますが、在籍 102 名の子どもの安全を守る為には保護者の方達の協力も必要です。防災引き取り訓練の日程を、早めにお勤め先へお知らせ頂き訓練にご参加下さい。

又、緊急連絡先メールアドレスの登録がされていない方は、登録にご協力ください。



(aozora@ni-juku.com)

★クラス紹介 (つき組)

『繋がりを感じ、

遊びや生活が楽しめる事を大切に』

4 歳児の特徴は、身近な用具の扱い方を理解し、目的に合わせた使い方がある事を知り、自由に描き、作る事を楽しむようになります。

担任は、遊びの中で「こうしたい」という

思いを受け止め、イ

メージや目的に合

うような材料を一

緒に見つけ提示し

て、共に考え楽し

さを味わい、子ども達

が「自分で表現・実現できた」と思えるよう

な援助を工夫し、環境を整える配慮をします。又、友達同士では、気の合う友達を見つけ、思いや考えを出し合いながら遊ぶ中で「やって良い事・悪い事」も区別をつけ、簡単なルールを形成する等の遊びを進めています。

その中でうまくいかない事や葛藤場面を通して、相手にも思い・考えがある事に気付き、少しずつ自分達でも解決できるよう、様々な場面で一人ひとりの思いをしっかりと受け止め、行動を見守りながら寄り添っていくことを大切にしながら、保育を行っています。

★給食室より

暑い日が続き、たくさんの汗をかき、のどが渇く季節です。こまめな水分補給を心がけましょう。

【水分補給はなぜ必要なのでしょう】

私たちの体の中に含まれている水分量は大人で 60%、子どもで 70~80% と言われています。



水分は栄養を運んだり、老廃物を排出したり、体温調節をしたりと、大切な働きをしています。夏は汗の量が多くなるため、脱水症状を起こさないように、熱中症予防のためにも、水分補給は大切です。

【水分補給のポイント】

- ① のどが渇く前に飲む (渇いたと感じた時は、すでに身体は水分不足です、特に乳児は自分からのどが渇いたと言えませんが大人が気を付けて水分補給を心がけましょう)
- ② 少しずつ、こまめに飲む (一度に沢山の水分を取ると食欲不振にもつながります)
- ③ 冷やしすぎや保管場所に注意 (冷たい物は胃に負担がかかります、また高温の場所に長時間飲み物を置くと食中毒の原因になります)
- ④ 飲み物の種類に気を付ける (糖分の多いジュース等では水分はうまく吸収されず、肥満や糖尿病、虫歯の原因になります)
- ⑤ 食べものからも水分補給 (旬の野菜や果物には多くの水分だけでなくミネラルも多く含まれています)

★保健室より

暑い時期は十分な睡眠・バランスの良い食事で暑さに負けない身体を作りましょう。外出時には、熱中症・紫外線対策もお願い致します。

寝冷えは、エアコン等で体を冷やしすぎたり、寝汗により体が冷えることが主な原因です。

エアコンと、扇風機を併用してみましょう。風の流れることができることで涼しく感じる効果もあります。冷気が直接体に当たらないように注意しましょう。

暑いと感じるままにしておく多くの汗をかき、その汗が冷えることで寝冷えします。汗で濡れた体は冷えやすく、気温の下がる朝方に寝冷えしてしまうのは意外と多いケースです。

【病児・病後児保育室ってどんな場所？】

感染症や怪我で保育園に来ることができない時、親に代わって保育士や看護師が子どもの状態に合わせた適切な保育・看護を行う場所です。

(詳細は看護師にお尋ねください)

病児・病後児では、以下のタイプに分けられます。

- ① 病児保育
病氣中で病状が安定している状態 (病氣中の子ども)
- ② 病後児保育
病氣の回復期にある状態 (病氣が治ってきた子ども)
- ③ 訪問型病後児保育
病氣の回復期にある状態 (病氣が治ってきた子ども) ご自宅に訪問して保育を行う



病氣や、怪我の際にご活用下さい。事業施設での登録が必要になります。

体調が不完全な状態で集団生活に戻ると、ぶりかえして更に病状が悪くなり、お子さんに負担がかかることもありますので、元気になってからの登園にご協力をお願い致します。